

## 「さり気ない行い」

ある小学校を訪問していたときの事です。4時間目の授業が終わり、しばらくして、給食中のある一年生の学級を訪れました。そのときの出来事です。

「ガシャン！」

ある男子の水筒が倒れ、机や床にお茶がこぼれました。  
(あっ！大丈夫かな？ 手伝おうか)

そう思った瞬間、周りの友達四人がさっと席を立ち、ベランダに行きました。四人は、ぞうきんを片手に戻ってきます。そして、担任の先生と一緒に、こぼれたお茶を片付けていきます。みるみるうちに片付いていきます。あっという間に元通りになり、手洗い場できれいに手を洗った後、何事もなかったかのように、再び、みんな食べ始めました。

行い自体は小さいことですが、とても印象的な出来事でした。誰に言われたわけでもないのに、自分から進んで動いているところがすばらしいと感じました。担任が「手伝って。」と言ったわけではありません。自分で考え、判断したのです。「やってあげているんだぞ。」という感じはなく、ごく自然でした。

担任の先生は、四人の児童のそばに行って、「ありがとう。」と言いました。ほめるのではなく、感謝の言葉で思いを伝えていました。すばらしい指導だと感じました。